

総説 日本医療コミュニケーション学会設立と学会誌発刊

Establishment of Japanese Association of Healthcare Communication and Its Official Journal

藤崎和彦¹⁾

Kazuhiko Fujisaki¹⁾

1)日本医療コミュニケーション学会会長

1)岐阜大学医学教育開発研究センター

1)President, Japanese Healthcare Communication

1)Medical Education Development Center, Gifu University

患者と医療者との対人レベルのコミュニケーションを実証研究する人文社会系研究者と医療系研究者が集まって2001年12月に「医療コミュニケーション研究会」が生まれました。20世紀後半から様々な医療分野でのマクロ、ミクロなコミュニケーションに注目が集まるようになり、その流れの中でヘルスコミュニケーション学会も誕生したのですが、「医療コミュニケーション研究会」は特に、患者・家族と医療従事者・医療系学生との間での対人コミュニケーションに特化し、なお且つ、コミュニケーションの理念を論じるというよりは対人コミュニケーションを実証的に研究、分析することを主要な目的として医学・社会学・心理学・文化人類学・コミュニケーション学・言語学などの幅広い分野の研究者が集まって生まれたとても学際的な研究会でした。

発会以来、研究例会を6月と12月の年2回開催し、20年間で研究例会は40回を数えるに至りました。研究例会を継続していく中で、学際的な研究会にありがちな、学問領域ごとの用語概念や研究手法の相違について、互いに建設的に批判検討する中で、新しい学術分野の創設を目指し、2009年12月には、この領域の実証研究に必要な理論や手法の概括入門書として「医療コミュニケーション 実証研究への多面的アプローチ」を篠原出版新社から出版しております。

この「医療コミュニケーション 実証研究への多面的アプローチ」は、この分野の研究をこれから開始しようという研究者（主に大学学部生や大学院生）が、自らの研究領域の手法以外の他のさまざまな研究理論や研究手法を鳥瞰し、この新しい学際領域に対する全体オリエンテーションを持ってもらえるような役割を期待して、当時の研究会に集まっていた多くの研究者たちの総力を集めて出版された書籍であります。

この度は、さらに多くの若手研究者や多領域の研究者へと活動のすそ野を広げていくことを目指し、2022年4月をもって「日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構」の一分科会として「日本医療コミュニケーション学会」として新たな船出を開始することとなりました。

従来、6月と12月の年2回開催していた研究例会も、秋のヘルスコミュニケーションウィークでのシンポジウムと春の研究例会というように時期と役割を分けて活動をしていこうと思っています。是非、みなさん、より多くの方が「日本医療コミュニケーション学会」のもとで活発な意見交換がされることを期待しております。研究者のみならず、実践で活躍する医療者を含めた、たくさんの方々が日本医療コミュニケーション学会の会員となり、本学会誌を購読することを期待しています。